



ビッグデータ新興国小型株ファンド(1年決算型)

懸念材料の後退により、 出遅れ解消の株価上昇に期待

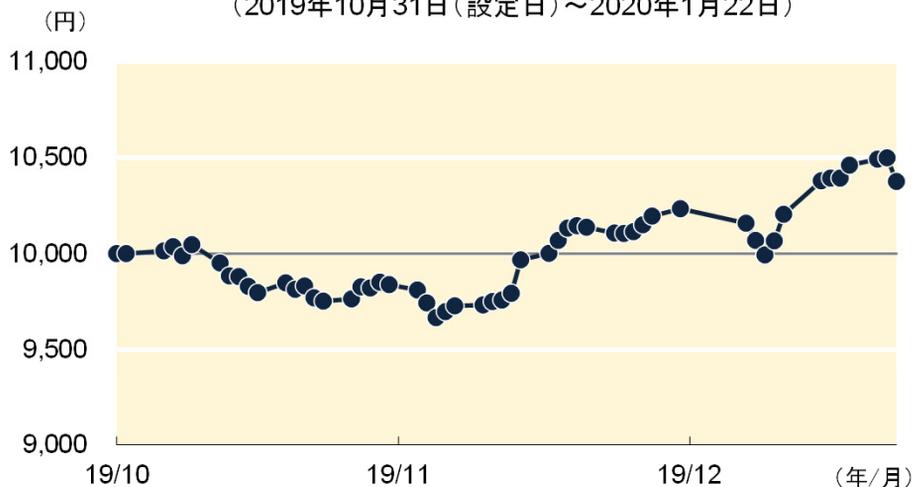
本レポートの 要旨

- ✓ 2020年に入り、米中貿易摩擦など、これまで景気の先行き不透明感の背景となっていた複数の懸念材料が後退し、市場では安心感が広がっています。
- ✓ 新興国株式は、出遅れ解消の動きから足元で上昇基調となっており、今後は、センチメントの改善が広がるにつれ、新興国小型株についても、注目が広がるとともに株価の反発が期待されます。

昨年12月以降、上昇基調となった当ファンドのパフォーマンス

<基準価額の推移>

(2019年10月31日(設定日)~2020年1月22日)



2020年1月22日現在

基準価額

10,375円

純資産総額

29.82億円

<月次騰落率>



*2020年1月は、22日まで

※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

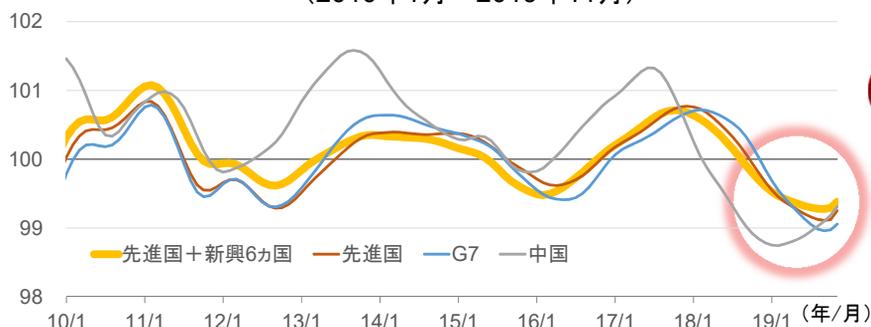
当資料は、投資者の皆様へ「ビッグデータ新興国小型株ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

グローバル景況感には、すでに持ち直しの動き

- 2019年は、米中関係の悪化に伴う世界景気の減速懸念を背景に、先行き不透明感の強い状況が続きました。しかし一方で、半導体などハイテクセクターの回復や米国の個人消費の堅調さを背景に、いくつかの景気先行指標には、すでに底打ちを示唆する動きがみられます。
- 昨年12月には、米国で低金利政策の継続が示唆されたことや、米中貿易交渉「第一段階」の合意が正式に発表されるなど、相次いで懸念材料が和らいだことも新興国経済に追い風となっています。

複数の経済指標や米中懸念の後退などから、広がる景気回復期待

＜OECD景気先行指数の推移＞
(2010年1月～2019年11月)

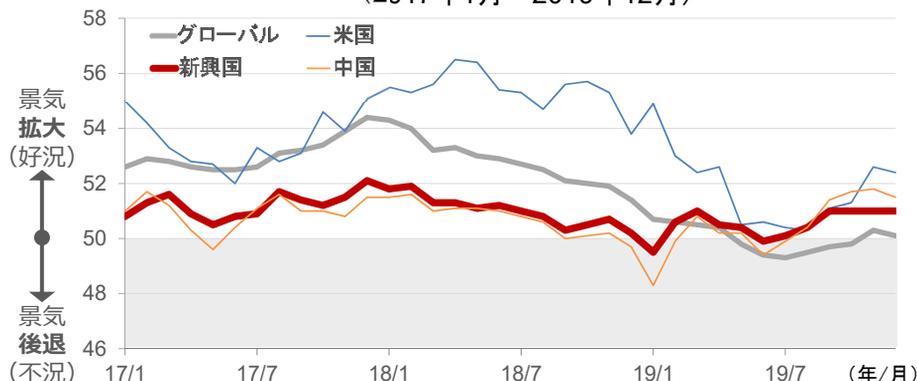


ポイント
1

景気を6ヵ月先行するとされるOECD景気先行指数は、足元で、すでに底打ち

出所: OECD

＜製造業PMI(購買担当者)指数の推移＞
(2017年1月～2019年12月)



ポイント
2

新興国製造業は、米中景気が急減速した2019年も、しっかりした推移

ポイント
3

米国・中国・新興国いずれも足元で、好不況の境目となる50を上回る水準を維持

出所: Markit

今年、再加速が見込まれる新興国経済

2020年1月、IMF（国際通貨基金）が、世界経済の改訂見通しを発表しました。新興国については、前回から幾分引き下げられたものの、2020年の成長率は4.4%と3年ぶりに成長加速に転じ、2021年も4.6%と、さらなる加速が見込まれています。

IMFは、製造業や世界貿易の底打ちの兆し及び世界的な金融緩和の拡がり、米中交渉の前進などの足元の状況を好材料としています。またこれらを受け、中国の成長見通しを引き上げたほか、世界経済の下振れリスクはやや緩和されたコメントしています。

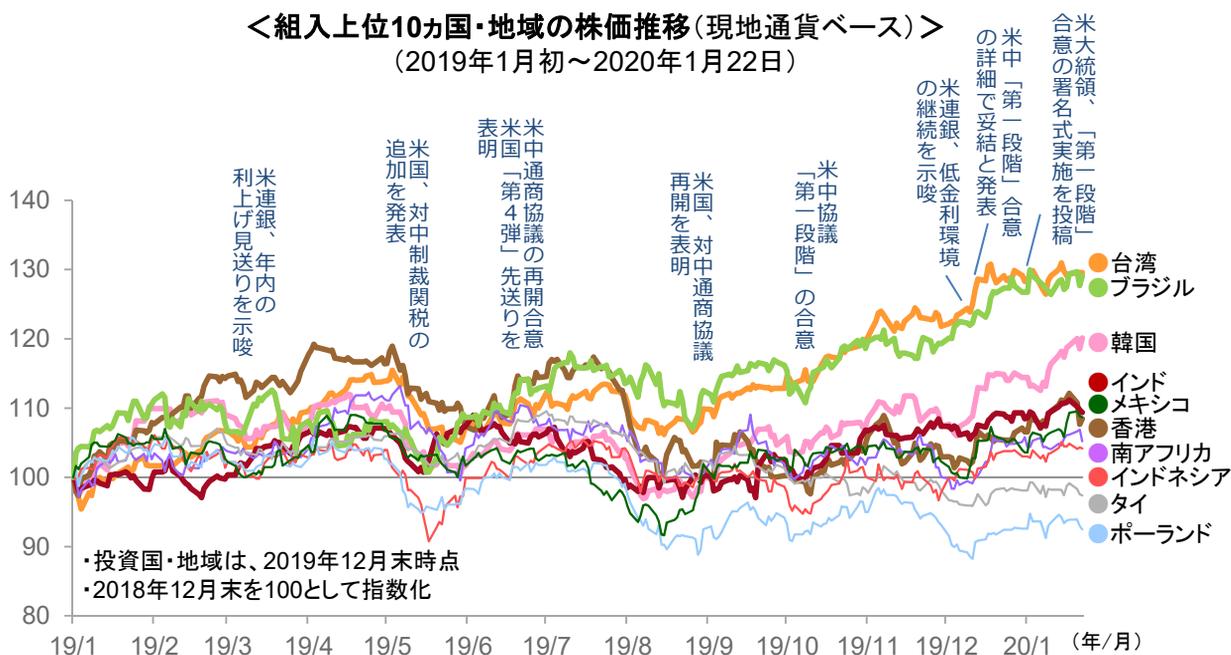
※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

株式市場に広がるリスク選好の動き

- 2019年の新興国株式市場では、米中摩擦の強まりに伴う世界景気の鈍化懸念などを背景に、10月にかけて、上値の重い展開が続きました。
- しかしながら、ハイテク関連企業を多く含む台湾や韓国、景気の底打ち期待が高まったブラジルなどでは、昨年後半の上昇が顕著となったほか、年末にかけては、米中関係の改善期待や米国の低金利継続などを背景に、新興国株式の懸念材料が後退したことから、投資家のリスク選好の動きが強まりました。

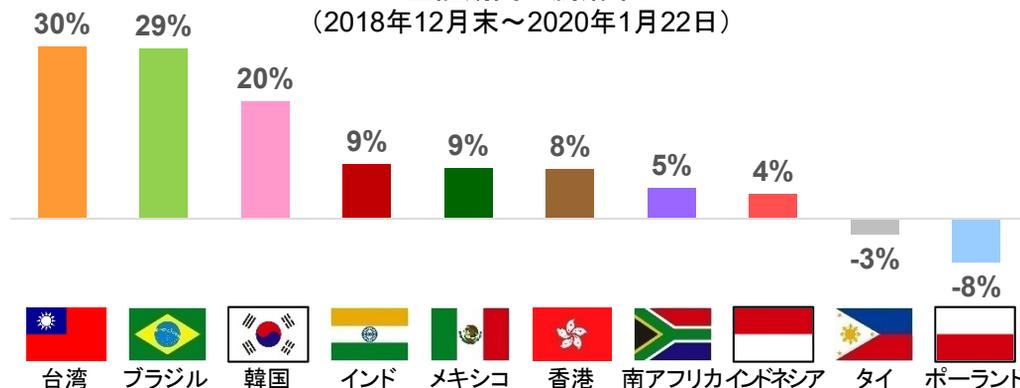
米低金利の継続や米中懸念の後退などが、市場の安心感に

＜組入上位10カ国・地域の株価推移（現地通貨ベース）＞
（2019年1月初～2020年1月22日）



＜上記期間の騰落率＞

（2018年12月末～2020年1月22日）



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「ビッグデータ新興国小型株ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

足元の投資環境は、新興国株式に追い風

- 株式市場では、米国株式をはじめとした先進国優勢の推移が続いたことから、2019年初以降、新興国株式の出遅れが目立つ展開となりましたが、年後半以降、投資環境に明るさが見られると、資金流入が加速し、上昇が顕著となりました。
- なかでも新興国小型株は、企業規模や流動性の観点から見過ごされやすいものの、高い潜在成長力を持つ企業も多いことから、相場好転とともに、業績見通しの高さに着目した株価反発が期待されます。

米国の低金利政策を受けて、新興国株式選好の動きが顕著に

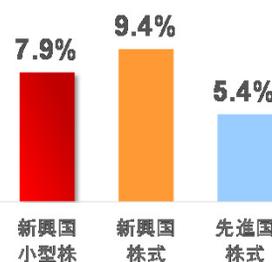
＜株価の推移＞

(2019年1月初～2020年1月22日)



12月1日からの騰落率

(2020年1月22日現在)

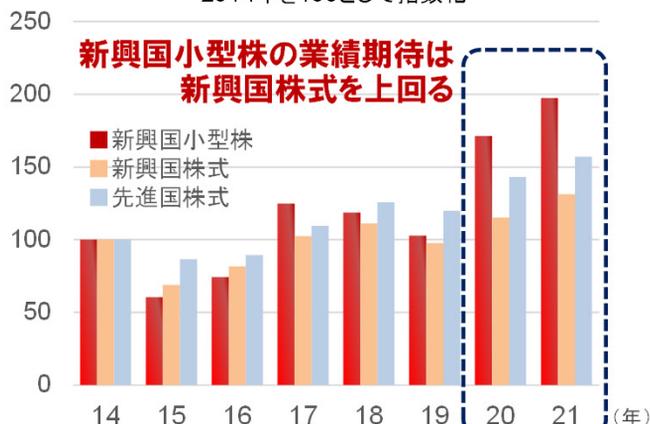


＜小型株の特性＞

	大型株	小型株
時価総額	大きい	小さい
アナリストのカバー数	多い 注目度が高い分、 上昇初期段階で 買われやすい	少ない 見過ごされやすく、 上昇初期段階に 出遅れやすい
市場流動性	高い 流動性による 値動きの影響は 受けにくい	低い 値動きが大きくなり、 注目後の瞬発力が 高まりやすい

＜EPS(1株当たり利益)の推移＞

(2014年～2021年予想)
2014年を100として指数化



新興国小型株:MSCIエマージング・マーケット小型株指数、新興国株式:MSCIエマージング・マーケット指数、先進国株式:MSCIワールド指数、いずれもトータルリターン。※上記は当ファンドのベンチマークではありません。信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「ビッグデータ新興国小型株ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

出遅れ解消の動きが期待される新興国小型株

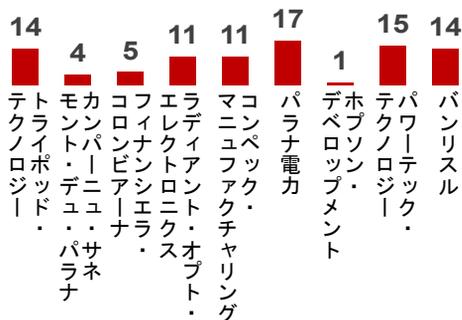
- 当ファンドは、ビッグデータを活用して新興国小型株の精査を行なうことで、膨大かつ広範囲にわたる銘柄群の中から、より投資妙味の高い銘柄へのアプローチが可能となります。そして、玉石混交ともいえる新興国小型株市場の中から、高い収益成長が見込まれながらも市場で見過ごされ、株価が出遅れていると判断した銘柄を選別します。
- これにより、株式市場で見過ごされていた銘柄が注目を浴びた際の株価反発が期待されます。

アナリストカバー数の少なさなどから、出遅れがちな新興国小型株

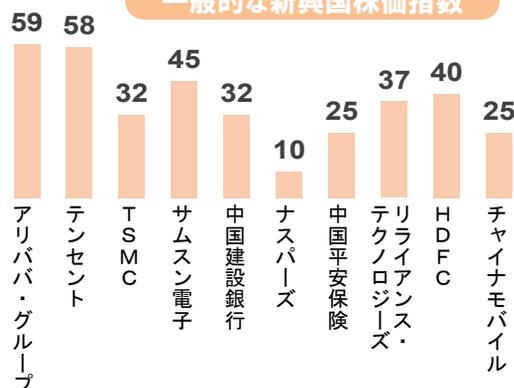
アナリストカバー数
(2019年12月末時点)

当ファンド(上位10銘柄)

※ETFを除く



一般的な新興国株価指数

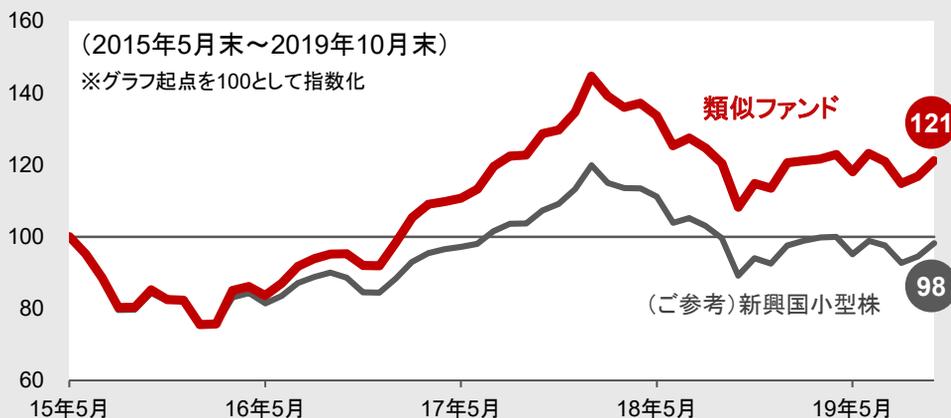


※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

当ファンドと実質的に同様の運用戦略を用いるアクサ・インベストメント・マネージャーズの既存ファンド(以下、類似ファンド)の状況をご紹介します。

【類似ファンドのパフォーマンス(トータルリターン、米ドルベース)推移】



アクサ・インベストメント・マネージャーズからのデータなどをもとに日興アセットマネジメントが作成

【リスク・リターン比較】

	リターン	リスク
類似ファンド	5.57%	15.8%
(参考) 新興国小型株	0.64%	14.6%

新興国小型株:
MSCIエマージング・マーケット小型株指数(トータルリターン)
※上記指数は、当ファンドのベンチマークではありません。
※リスクは上記期間の月次騰落率の標準偏差を年率換算し、リターンは上記期間の月次騰落率の平均を年率換算したものです。

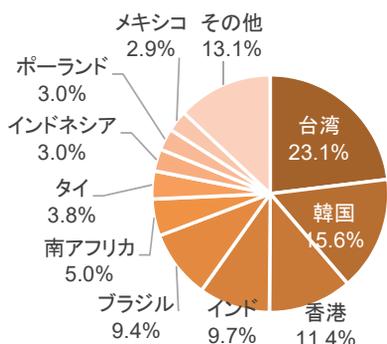
当資料では、当ファンドと実質的に同様の運用戦略を用いるアクサ・インベストメント・マネージャーズの既存ファンドを「類似ファンド」と呼び、ご参考情報として掲載しています。※ただし、当ファンド(2019年10月設定)が類似ファンドと同様のリターンやリスクを達成することを約束するものではありません。また、当ファンドは円建てである一方、類似ファンドは米ドル建てという違いがあるほか、投資形態、信託報酬率、運用資産の規模、設定・解約に伴う資金流出入額なども異なるため将来の運用成果も異なります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

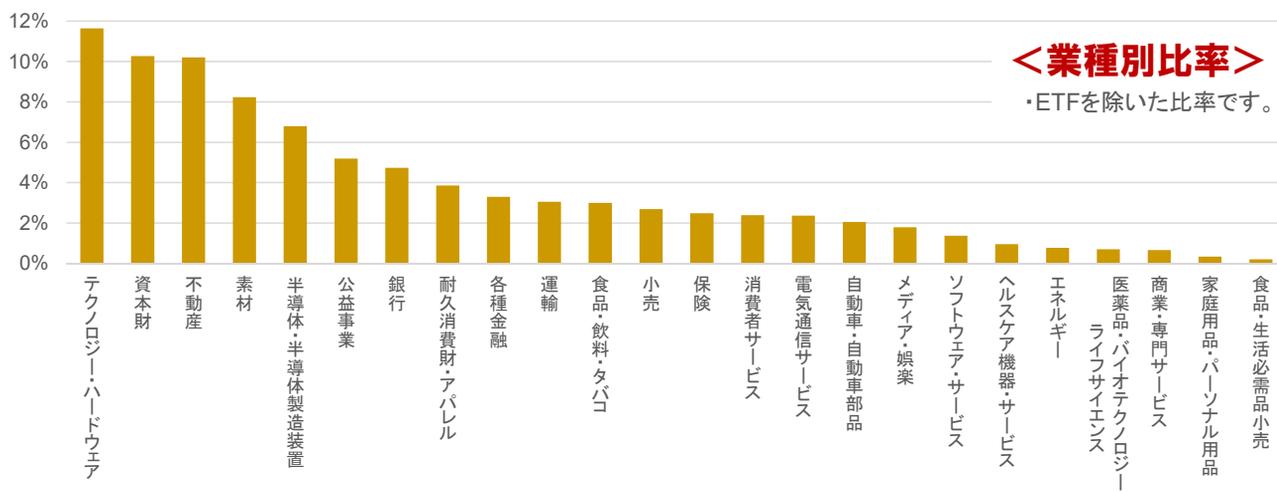
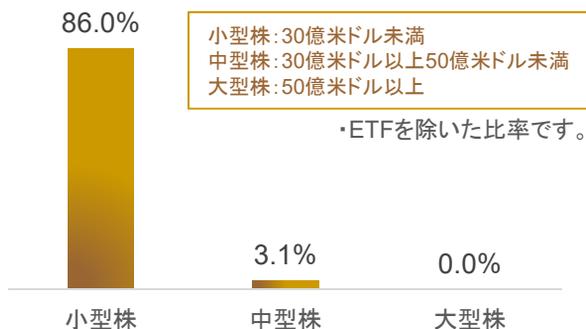
当資料は、投資者の皆様へ「ビッグデータ新興国小型株ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ポートフォリオ概要(2019年12月末現在)

<国・地域別比率>



<規模別構成比率>



<組入上位10銘柄>

【銘柄数:380銘柄】

順位	銘柄名	通貨	国・地域	業種名	比率
1	*アイ・シェアーズ・エムエスシアイ・インディア・スモールキャップ	米ドル	インド	その他	9.7%
2	トライボット・テクノロジー	台湾ドル	台湾	テクノロジー・ハードウェア	1.0%
3	カンパーニュ・サネメント・デュ・パラナ	ブラジルリアル	ブラジル	公益事業	1.0%
4	フィナンシエラ・コロンビアーナ	コロンビアペソ	コロンビア	各種金融	1.0%
5	ラディアント・オプト・エレクトロニクス	台湾ドル	台湾	半導体・半導体製造装置	1.0%
6	コンベック・マニュファクチャリング	台湾ドル	台湾	テクノロジー・ハードウェア	0.9%
7	パラナ電力	ブラジルリアル	ブラジル	公益事業	0.9%
8	ホプソン・デベロップ	香港ドル	香港	不動産	0.8%
9	パワーテック・テクノロジー	台湾ドル	台湾	半導体・半導体製造装置	0.8%
10	バンリスル	ブラジルリアル	ブラジル	銀行	0.8%

* 一部の市場において、取引するための手続きに時間を要することや流動性などを勘案して、投資対象国のETF(上場投資信託証券)や該当企業のADR・GDR(預託証券)等を組み入れる場合があります。

※ 上記はマザーファンドの状況です。比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

※ 業種名はGICS(世界産業分類基準)に基づきます。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「ビッグデータ新興国小型株ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

- 1 主として、新興国の小型株式に投資を行ないます。
- 2 ビッグデータを活用した計量モデル運用に強みをもつ
アクサ・インベストメント・マネージャーズが実質的な運用を行ないます。
- 3 年1回、決算を行ないます。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

お申込に際しての留意事項

■ リスク情報

投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。
なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】

※ ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■ その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡しますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

お申込みメモ

商品分類	追加型投信／海外／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	2029年10月22日まで(2019年10月31日設定)
決算日	毎年10月20日(休業日の場合は翌営業日)
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し <u>3.3%(税抜3%)以内</u> ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対し年率1.892%(税抜1.72%)程度が実質的な信託報酬となります。 信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率1.1825%(税抜1.075%)、投資対象となる投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.7095%(税抜0.645%)程度となります。
その他の費用・ 手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、 <u>ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。</u> 組入る有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などが、その都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ]www.nikkoam.com/ [コールセンター]0120-25-1404(午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申し込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
岡三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第53号	○	○		○
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第24号	○			○

(50音順、資料作成日現在)